

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論 Introduction to Education	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	① 教育という現象の全体像を把握し、教育（特に初等教育）に関する理念と実際をおおまかに理解することを目的とする。 ② 日本及び世界の教育の歴史と発展を理解し、現代社会の変化を把握して、教育の思想について理解することを目的とする。					
キーワード	教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題	学修教育目標	① 教育学の基礎理論を理解できる。 ② 社会の変化に伴いながら、変化してきた学校園の歴史や授業方法、教育課程、学力観を理解できる。 ③ 日本及び世界の教育の歴史と思想を理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題を理解し、自身の教育の意義を確立するために、以下の内容で授業を進める。なお、毎授業終了前に学修した内容の要約、感想、疑問点などのワークシートに記入して提出する。ワークシートは次回の授業の最初に返却する。 1. 教育学の概念 2. 教育の本質 3. 教育制度 4. 教育課題						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教職入門」「教育課程論」。予習・復習をしっかりと行うこと。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：『教育原理』 著者名：坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 出版社：光生館			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題解決が難しい事例研究において、新しい解決策を見つけることができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について、十分に説明できる。				○
	② 傾聴力	他の人の意見をしっかりと聴き、そのことについてコメントができる。				△
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	授業に遅れず出席できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。				○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	20	20				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55	20						75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				20					20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、それらを有機的に関連させて、現代の教育問題を分析し、課題を指摘することができる(80%以上)。					教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、現代の教育問題を指摘することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教授・陶冶・訓育とは 「教育」の語源：養育から教育へ（教育の基本的概念）	講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育学概論（初等）とは何かを理解する。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第2回 /	教育とは・・・教育の語義 教育の目的を考える(教育の基本的概念)	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第3回 /	社会と教育（教育の基本的概念）	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第4回 /	教育の必要性と可能性・・・人間と環境、野生児の研究 （教育に関する様々な思想）	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第5回 /	第1章 教育とは・・・【プロジェクト学習】（教育に関する歴史） 教育の語義 社会と教育 人間と環境 野生児の研究 動物学から見た人間の特殊性	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第6回 /	動物学から見た人間の特殊性（教育に関する様々な思想）	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第7回 /	第6章 近代学校教育の成立と展開・・・【プロジェクト学習】（教育に関する歴史） 「学制」の実施 「諸学校令」の制定 「教育勅語」の制定 小学校令の改正 と義務教育制度の確立戦後の教育改革	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第8回 /	近代教育の成立（教育に関する歴史）	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第9回 /	教育的関係における教えることと学ぶこと	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第10回 /	教えることの復権 (1)学習と教育 (2)障壁としての教育者	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第11回 /	教育と福祉 子どもの権利としての教育と福祉 子どもの権利条約	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第12回 /	生涯学習社会と教育 生涯学習とは	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第13回 /	第9章 教育の実践・・・【プロジェクト学習】 教育基本法 学校教育法 「生きる力」の考え方 教え方や学び方の 質と「資質・能力の育成」 教育課程の基準	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第14回 /	第10章 特別支援教育・・・【プロジェクト学習】 特別支援教育と障害について 特殊教育から特別支援教育へ 特別支援教育に変わったきっかけ 幼児期の特別支援教育 特別支援教育の今	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第15回 /	まとめ:教育とは	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
試験	最終試験あり (テスト配点 50 点満点 、 授業態度点 50 点満点 の 合計 100 点満点 で成績判定をする)			
注意	【プロジェクト学習】 … この学習時には必ず教科書が必要であるため、持参することを忘れないように（忘れると学習ができなくなるため大幅な減点となる）			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育史 History of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	歴史上に現れた様々な教育思想や教育制度について通史的に概観する。教員採用試験の教職教養分野において、教育史に関する試験はある程度の割合を占めている。試験対策を視野に入れた授業を行う。					
	キーワード	西洋教育史 日本教育史	学修教育目標	① 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付ける。 ② 多様な教育の理念と関わり、過去から現在に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 ③ 教育に関する思想を理解できる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

教材を PDF 等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノート PC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノート PC やタブレットをすすめる。西洋古代から現代にいたるまでの主要な教育思想家をとりあげ、その教育思想を概観する。また日本の教育史も取り上げる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職の専門科目すべてに関連する。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書名：『西洋の教育の歴史と思想』 著者名：山崎英則・徳本達夫 編 出版社：ミネルヴァ書房 書名：『近現代教育史』 著者名：柴田義松・斉藤利彦 編 出版社：学文社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	△
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	△
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。	○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとするができる。	○
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。	○
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだ教育史の様々な知識を、教育実習等で授業を行う際あるいは指導案を作成するときに想起し、応用して、使うことができる。					教育史の様々な知識を身につけて、教員採用試験の勉強に役立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 1. 古代ギリシアの教育 (1) アテネとスパルタの教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	(2) ソクラテスの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	2. 古代ローマの教育 3. 中世キリスト教社会の教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	4. 近世の教育思想 (1) コメニウスの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	(1) コメニウスの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	(2) ロックの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	(2) ロックの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	(3) ルソーの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	(3) ルソーの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	5. 近代の教育思想 (1) ペスタロッチの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	(2) フレーベルの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	(3) ヘルバルトの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	6. 現代の教育思想 (1) デューイの教育思想 (2) その他の教育思想家	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	7. 日本の教育史①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	8. 日本の教育史②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論 Introduction to Teacher Education	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教育の基礎的理解に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。					
	① 学校教育における教員の職務内容を理解するとともに、学生が自ら目標とするべき教員像をもち、教育に関する法令を詳しく理解し、それに基づく教職のあり方（服務及び身分保障、研修等）を理解することを目的とする。 ② 学校は法令に基づいた教育活動を展開することを目的とした一つの組織体であり、「組織」と学校経営の視点に立ち、組織の中の一員としての責任感と使命感のある教職を理解することを目的とする。 ③ 教職への道に進む上で、最近の教育改革の動きを認識し、新しい学校づくりをするための教育評価の概要を理解することを目的とする。					

キーワード	教職の意義 学校法令 教職の特性 教員像 アクティブ・ラーニング	学修教育目標	1. 教職に課せられた責任と使命を自覚し、学校という組織の中での責任感と使命感のある教員のあり方を理解できる。 2. 教育法令に基づき、学校経営の取り組みや学校改革の動きを理解できる。 3. 学校づくりをするための教育評価の概要を理解できる。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教職科目の意義や教員養成の歴史を踏まえて、教育に関する基本的な用語を理解したうえで、受講生の教職志望理由を確認する。また、新学習指導要領においても、教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性が説明されていることから、受講生自身の積極性や主体性を重視する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

新学習指導要領では、教員養成課程でも「主体的・対話的で深い学び」を求めている。また、「いじめ対策防止推進法」第18条では、「いじめ防止等のための対策が専門的知識に基づき適切に行われるよう教員の養成及び研修の充実を通じた教員の資質の向上」が明記されており、いじめ問題を含めた学校教育における諸課題について、受講者が主体的に問題意識を持つことが要求される。

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：『MINERVA はじめて学ぶ教職2 教職論』 著者名：吉田武男 編著 出版社：ミネルヴァ書房	書名：『教職をめざす人のための教育用語・法規』 著者名：広岡義之 出版社：ミネルヴァ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教職に対する主体的かつ日常的な問題関心を継続する。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	教職に対する主体的かつ日常的な問題関心を発表する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育情勢に対する主体的かつ日常的な問題意識を継続する。	○
	② 計画力	教育情勢に対する主体的かつ日常的な問題意識を整理し、記録する。	◎
	③ 創造力	教育情勢に対する主体的かつ日常的な問題意識を文章にまとめ、提示する。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教育情勢に対する主体的な問題関心について、他者と意見交換する。	◎
	④ 状況把握力	教育情勢に対する主体的な問題関心を整理する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自分自身の道徳的教育観を堪忍する。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	20			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価					5			5	10
	応用力に関する評価				5	5				10
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価				5	10			10	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がよく理解され明確な教職志望理由を発表できる。</p>					<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がおおむね理解され教職志望理由を発表できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	質疑応答	【予習】 本授業を履修する理由を確認しておく。	45
			【復習】 シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認する。	
第2回 /	教職の意義と教師観 教職の専門性・資質能力、教職の意義、求められる教師像	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観し、教師の仕事を想像する。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、「求められる教師像」という問いに対する自分なりの答えを考える。	45
第3回 /	教師の仕事 教師の資格と役割及び責任	質疑応答 ディスカッション	【予習】 前回の講話の内容を基に、教師の仕事を想像する。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、「他業種との違い」という問いに対する自分なりの答えを考える。	45
第4回 /	教師を育成するシステム（1） 教育制度と教員養成—明治期から昭和期を中心に	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、教師を育成するシステムについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第5回 /	教師を育成するシステム（2） 教育制度と教員養成—平成期を中心に	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、教師を育成するシステムについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第6回 /	教師の専門性 専門職としての教師及び「チームとしての学校」	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、「チームとしての学校」の概念について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第7回 /	教師の職務 教師の職務の全体像と特徴、服務と身分保障	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、教師の職務について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第8回 /	授業づくり（1） カリキュラムマネジメントの意義と視点	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、カリキュラムづくりについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第9回 /	授業づくり（2） 新学習指導要領で求められる教師像、「生きる力」	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、授業づくりについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第10回 /	学級づくり 学級担任の仕事と学級づくり	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、学級担任の仕事について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第11回 /	障害のある子どもへの支援 特別なニーズをもつ子どもへの支援、特別支援学校の現状と課題	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、特別なニーズをもつ子どもへの支援について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第12回 /	教育法令について 教育基本法、学校教育法、教員免許法、日本国憲法等	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、各教育関連法規について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第13回 /	学校経営、学校評価について 校長のリーダーシップ、学校経営目標、学校評価の意義・目的・役割等	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、学校経営及び学校評価について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第14回 /	教師のライフサイクル、教員採用試験	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストの該当箇所を概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 これまでの全講義内容を整理し、質問や疑問点を整理しておく。	45
第15回 /	まとめとふり返り	質疑応答	【予習】 これまでの講義内容を総復習する。	45
			【復習】 試験準備を行う。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学 Sociology of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を学ぶ。子どもが初等教育を通して社会の中でどのように位置付けていくのかを学ぶ。また、近年の教育問題に焦点を当て、社会学的手法で分析・考察していくことにより理解する。</p>	
	<p>社会的な手法 批判的思考力 教育問題 エビデンス</p>	<p>学修教育目標</p> <p>(1) 社会構造の中で教育をとらえ、その機能が理解できる。 (2) 教育の場における様々な問題を社会学的手法で分析・考察し、理解できる。 (3) 学校と地域の連携について、その意義や協働の仕方を事例に基づき理解できる。 (4) 学校保健安全法に基づく学校での危機とその管理について理解できる。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では、「教育」「社会」「学校」の関連について知識を得るというよりも、素朴な疑問をもとにその社会的背景や影響について考えることを重視したい(考える訓練)。そのために、テキストを資料にして各グループで協力して考え、提案と発表を行い、全体のディスカッションにより考えを深めたい。緊張感を持って、真面目に授業に向かうことが必要。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本講義は、教育学に関わる専門科目である。すでに教育学関連の基礎的な関連科目、例えば「教職入門」「教育学概論」「教育心理学」といった諸科目を履修している。将来自分が教えるかもしれない子どもたちに恥じぬよう、真摯な態度で、真面目に授業に向かうこと。

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：『現代社会と教育』 著者名：汐見稔幸 監修 出版社：ミネルヴァ書房</p>	<p>有本 章他 『教育社会学概論』 ミネルヴァ社 若槻健・西田芳正編 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 荻谷剛彦他 『教育の社会学(新版)』 有斐閣 文部科学省 『学校安全(最新版)』 渡邊正樹編著 『学校安全と危機管理 改訂版』</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標(※1)
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自ら進んで質問することができる。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	プレゼンテーションのテーマを発表時の情報伝達内容を意識して決定することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントできる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		5	20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価		10			5			10	25
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価				5	5			20	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を十分理解している(80%以上)。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力を十分つける(80%以上)ことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を理解している。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力をつけることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション 教育社会学とは、社会学的方法について	講義・質疑応答 グループ編成	【復習】 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			
第2回 ／	社会の中の教育（1） 教育環境としての地域社会の役割と変化	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育環境としての地域社会の役割と変化」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第3回 ／	社会の中の教育（2） 学校のある社会	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校のある社会」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第4回 ／	社会としての学校（1） 子どもの社会学、教室	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校教育の発展過程と現状」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第5回 ／	社会としての学校（2） 教育問題、教師の理想と現実	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育改革」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第6回 ／	学校と地域の連携の歴史	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「子どもの社会学」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第7回 ／	学校と地域の連携による効果 子ども、学校（教員）、地域住民にとっての効果	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教室」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第8回 ／	学校と地域の連携の目指す姿	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育問題」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第9回 ／	コーディネートに必要な基礎的な知識	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教師の理想と現実」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第10回 ／	学校安全・危機管理の概要 学校保健安全法等	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力問題(学力低下と学力格差)」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第11回 ／	子どもを取り巻く危険と事件・事故	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「地域社会と学校」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第12回 ／	学校安全・危機管理の進め方	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力向上と格差是正のための教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第13回 ／	体育・スポーツ活動と負傷・障害	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「ジェンダーと教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第14回 ／	学校安全・危機管理における教職員の役割	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学歴社会」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	
第15回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「社会構造と教育」を読む。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価		【復習】 ・グループ討議を振り返り、内容を整理する。 ・これまでの講義内容を総復習する。 ・ポートフォリオを完成させる。	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 Educational Psychology	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童・生徒の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に着けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教科書	参考書・リザーブブック
プリント配布	書名：『精選 コンパクト教育心理学』 著者名：北尾倫彦・中島実 他 出版社：北大路書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション - 教育心理学とは コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第2回 ／	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィグーストとエリクソンの発達課題 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第3回 ／	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第4回 ／	心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第5回 ／	心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第6回 ／	心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第7回 ／	心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第8回 ／	人格・個性・適応 生徒の人格形成や個性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第9回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第10回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第11回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第12回 ／	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第13回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第14回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第15回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育 Special Needs Education	1単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>通常の学級にも在籍をしている発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により、特別の支援を必要としている児童生徒が授業において、学習活動に参加している中で達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるように、それぞれの児童生徒の困難さや特性・発達のみちすじなどについて理解を深め、関係機関や他の教員と連絡、連携をとり、組織的に支援をしていくことのできる知識、技術、支援方法について理解をし、実践ができるようにする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	障害の理解 特別の教育的ニーズ 個別支援 発達のみちすじ	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害の発生原因を理解している。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童に対する支援の方法について理解する。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけを理解している。 ・不登校や社会的マイノリティ等、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の把握や支援の意義と方法を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の支援計画及び、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーターの役割と連携の重要性について理解をしている。
-------	---------------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童生徒が、発達の観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。</p> <p>これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを、歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。</p>	
---	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし	
------	--

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：人権としての特別支援教育 著者名：近藤真理子・小野川文子・小畑耕作・宮本郷子 出版社：文理閣	書名：キーワードブック特別支援教育 著者名：玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・小畑耕作他 出版社：クリエイツかもがわ

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の強み・弱みを把握するとともに、支援の必要な児童の強み・弱みを把握し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	学校現場で起きている事象について認識し、情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	グループワークやペアワークで、課題の内容を把握し話そうとすることを順序立てて伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	グループワークやペアワークで、意見の異なる相手の背景や事情を理解することができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	児童生徒の意思決定や権利を守りながら、支援をすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	10			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		5	5			20	70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5	5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を充分理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を充分理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、相手に伝わるように表現することができる。 各項目の理解度が、80%以上である。</p>					<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、表現することができる。 各項目の理解度が、60～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	特別支援教育のめざすもの 特別なニーズのある子ども	グループワーク 講義、演習	授業内容に関するコメント	30
第2回 /	特別なニーズのある子どもたち — 知的障害の子ども理解と教育支援	講義、グループワーク	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第3回 /	肢体不自由児の理解と教育支援	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第4回 /	発達障害の理解と教育支援 — 自閉スペクトラム症・発達障害・学習障害の理解と教育支援	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第5回 /	社会的マイノリティの子どもたち（外国人、弱者 貧困）や不登校の子どもたちの実際とかかわり～特別な教育的ニーズのある子ども、家庭の支援～	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第6回 /	支援の実際を考える～個別教育支援計画と指導について	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第7回 /	支援の実際を考える～声掛け 教材作り～	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10
第8回 /	教室でともに育つための指導について — 困っている子を困った子にしない学級づくりについて考える	講義・ビデオ	予習：授業内容に関するコメント用シート 復習：前回の復習	30 10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論 Curriculum Theory	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育における教育課程の重要性を理解し、学校での実際の運用や教育行政の法制上、実務上の関与について学修する。 本学修を通して、教育課程編成全体にわたる視野を持ち、教育課程編成に取り組むことができる教師としての基礎力を養成する。	
	キーワード	学修教育目標

教育課程の編成方法、指導計画、教師としての使命感・倫理観	<p>教育課程の原理、編成の方法を学び、学校教育を推進するために必要な、実践に即した教育課程編成に関わる元礎的な素養を身につける。</p> <p>現行の学習指導要領の「目標」「内容」がわかり教諭として、教育課程作成に取り組もうとする意欲を持つことができる。</p> <p>学習指導要領等に基づいたカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価を理解することができる。</p>
------------------------------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>教育課程、カリキュラムとは、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。本講義では、教育課程とは何か、学校の教育課程はどのように編成されるか、その編成の違いを明らかにしながら、生徒理解に基づいた教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。教育現場での経験に基づき、教師に求められる子ども理解と教材研究の重要性を認識する。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教職入門」「教育学概論」の理解につながる。

教科書	参考書・リザーブブック
独自の教材を使用するため、購入は不要	<p>書名：教育課程—これから求められるカリキュラム開発力—</p> <p>著者名：石村卓也著</p> <p>出版社：昭和堂刊</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる。	◎
	② 傾聴力	チーム内の多様な意見に耳を傾け、チームをまとめることができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	30		5		5	15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	30						65
	技能に関する評価								5	5
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価							5	10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育課程とは何か、学校の教育課程はどのように編成されるか、その違いはどこにあるのか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の学校の教育課程はどのような特徴をもつか等について理解し、説明することができる。</p>					<p>教育課程の意義と目的について理解し、教育課程及び学習指導要領編成の内容について説明することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育課程論オリエンテーション—教育課程とは—	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育学概論(初等)とは何かを理解する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			
第2回 /	「教育課程」の定義・公教育の原理、教育基本法 ①要約の学習	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第3回 /	公教育制度を構成している教育関係法規	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			90
第4回 /	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け ②要約の学習	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第5回 /	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第6回 /	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第7回 /	教育課程が社会において果たしている役割や機能	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第8回 /	教育課程編成の基本原理	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第9回 /	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第10回 /	単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画の検討	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第11回 /	学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第12回 /	カリキュラム評価の基礎的な考え方	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第13回 /	教育課程の基本構造、教育課程編成の主体 ③要約の学習	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第14回 /	学力と教育評価	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
第15回 /	全体のまとめ 教育課程の目指すもの・教師としてあるべきもの	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	45
	授業終了前、本授業のワーク・シートの提出・評価			45
試験	最終試験あり (テスト配点 50 点満点 、 授業態度点 50 点満点 の 合計 100 点満点 で成績判定をする)			
注意	【①. ②. ③ 要約の学習】 … この学習時には長文を要約する力が必要である。この学習は1年次(教育学概論)で実施した「プロジェクト学習」の応用編となる。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法 Study of Moral Education	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	道徳教育では、生徒自らが人としてのあり方を見つめなおすとともに、よりよい生き方を追求することにより、道徳性の発達を促し、実践力を高めることをめざす。そこで価値観が多様化する社会において、生徒の心に響き、内面から実践力へと繋がる道徳教育のあり方について、自ら考えられる力を養う。					
キーワード	生命、国際理解、友情、愛情、モラルジレンマ、学校、家族、地域社会、思いやり	学修教育目標	(1) 学習指導要領の変遷のなかで、1958年に「道徳の時間」が設立されるまでの背景を理解する。 (2) 「道徳の時間」が設定後、「4つの視点」導入や「道徳科」設定までの変遷を理解する。 (3) 道徳教育の題材を探索し、模擬授業の学習指導案を構想する。 (4) 模擬授業を実施し、他の受講生と対比して自己評価をする。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
戦争中・戦前の道徳教育ともいえる「修身」と対比しながら、現代の「道徳教育」の意義を学習指導要領の変遷をもとにして、歴史的に理解する。その際、1958年と1989年の学習指導要領が変遷のポイントにおいて、道徳教育の意義がどのように変わったかを考察する。そのような歴史的経過を踏まえて、受講者自身が受容してきた道徳教育をふりかえり、自分自身が模擬授業を構想するヒントとする。模擬授業を実践することはもちろん重要であるが、他の受講生による模擬授業と対比することによって、自分の模擬授業を自己評価することの従業性も理解したい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
道徳教育は、学校の授業のなかだけではなく、日常生活においても自分自身で考えていく必要があり、特別活動や総合の時間とも関係が深い。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：生徒指導論・道徳指導法 著者名：梨木 昭平 出版社：三恵社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。				○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10	10			5	25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
道徳教育の目標・内容・方法について十分理解できている。					道徳教育の目標・内容・方法について十分理解できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	道徳教育のあゆみ(1)（戦前の道徳教育）	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第2回 /	道徳教育のあゆみ(2)（戦後の道徳教育）	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第3回 /	道徳教育の現状と課題	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第4回 /	道徳教育の位置と役割	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第5回 /	道徳の時間の指導の手立て(1)	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第6回 /	道徳の時間の指導の手立て(2)	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第7回 /	道徳の時間の指導の手立て(3)	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第8回 /	道徳の時間の指導の手立て(4)	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：中間テスト(小テスト)対策	30 30
	コメントシート			
第9回 /	道徳の時間の学習指導案の作成と検討	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	中間テスト(小テスト) コメントシート			
第10回 /	道徳の時間の学習指導案の作成と検討	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第11回 /	学習指導案にもとづく模擬授業とその分析	講義	予習：模擬授業に関する事前学習（教科書） 復習：模擬授業のふりかえり・まとめ	30 30
	コメントシート			
第12回 /	学習指導案にもとづく模擬授業とその分析	講義	予習：模擬授業に関する事前学習（教科書） 復習：模擬授業のふりかえり・まとめ	30 30
	コメントシート			
第13回 /	学習指導案にもとづく模擬授業とその分析	講義	予習：模擬授業に関する事前学習（教科書） 復習：模擬授業のふりかえり・まとめ	30 30
	コメントシート			
第14回 /	学習指導案にもとづく模擬授業とその分析	講義	予習：模擬授業に関する事前学習（教科書） 復習：模擬授業のふりかえり・まとめ	30 30
	コメントシート			
第15回 /	道徳の時間の評価	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ 全体のレポート課題	30 30
	コメントシート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 Theory and Practice of Extra Curriculum and Periods for Integrated Study in School	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を重視しながら、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を改善していくことを目的としている。</p> <p>総合的な学習の時間では、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざしている。</p> <p>そこで、教育課程における特別活動や総合的な学習の時間の位置付けやその関連を理解し、各教科等との関連を見据えた活動や取り組みについて、それぞれの特質や内容、指導計画について、企画担当者や学級担任の立場から具体的な立案や指導のあり方を修得する。</p>
--------	--

キーワード	<p>集団活動、人間関係形成、社会参画、自己実現 探究学習、横断的な学習、カリキュラムマネジメント</p>	学修教育目標	<p>学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の意義、目標および内容を理解の上、各教科との関連を考えた年間指導計画を立案することができる。課題の発見から取り組みの振り返りに至る各段階において、子どもの主体的・対話的な学びを促す単元計画を立て、指導案を作成し、実践することができる。特別活動および総合的な学習の時間の評価の方法と留意点を理解している。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>特別活動についての基礎的な理論の理解をもとに、学級活動等の模擬授業を行います。事前に具体的な資料や情報を収集しておきましょう。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（初等）、生活科概論、教科教育法（生活）、進路指導の理論と方法</p>

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：『中学校学習指導要領解説 特別活動編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p> <p>書名：『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p>	<p>適宜、講義中に紹介します。</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを發揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に發揮できる力が身に付く ○:通常状況で發揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			10	20		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価					10	20			30
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の内容を十分理解し、望ましい集団づくりのための指導や学級経営に生かすことができる。 ・各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の内容を理解し、望ましい集団づくりのための指導に生かすことができる。 ・各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	特別活動の役割 －学校教育の現状と特別活動の意義・目標－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第2回 /	総合的な学習の時間の役割 －学校教育の現状と横断的・総合的な学習の意義・目標－	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第3回 /	特別活動の内容（1） －児童会活動・クラブ活動の目標と内容－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第4回 /	特別活動の内容（2） －学校行事の目標と内容－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第5回 /	特別活動の内容（3） －学級活動の目標と内容：望ましい人間関係の形成、諸問題の解決－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第6回 /	特別活動の指導内容 －教科等、総合的な学習の時間との関連と指導のあり方－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動の内容についての復習	30
第7回 /	キャリア教育、防災教育等の協働活動 －家庭・地域や関係機関との連携とカリキュラムマネジメント－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動及び総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第8回 /	総合的な学習の時間の指導内容 －各教科との関連、目標・内容の設定と年間計画・単元計画－	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第9回 /	総合的な学習の時間の指導方法 －探究的な学習を実現するための具体的な方法（事例）－	・講義 ・グループ・ディスカッション	総合的な学習の時間の内容についての復習	30
第10回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(1) －活動のめあての設定について－	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第11回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(2) －発問の仕方やよりよい板書について－	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第12回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(3) －児童の主体的・協働的な活動に対する支援－	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第13回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(4) －児童の合意形成に向けた対話的な話し合いに対する支援－	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第14回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の指導案作成と授業について(5) －活動の振り返り（取組の評価と改善活動）について－	・講義 ・グループ・ディスカッション	指導内容と指導方法についての改善	30
第15回 /	特別活動及び総合的な学習の時間の評価について －評価の方法と留意点－	・講義 ・グループ・ディスカッション	特別活動及び総合的な学習の時間の評価についての復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術	教育方法論 Methodology of Education	1単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	本科目は授業を展開する上で技術的な手法や原理を学ぶものであり、歴史的背景を踏まえて、今日の教育システムが抱える問題点（特に初等教育）を考察するものである。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	教育方法の歴史及び理論	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。			
-------	-------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

本科目は授業を展開する上で技術的な手法や原理を学ぶものであり、歴史的背景を踏まえて、今日の教育システムが抱える問題点（特に初等教育）を考察するものである。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。						
---------------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：『教育方法論【改訂版】』 著者名：谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編 出版社：一藝社			書名：『小学校学習指導要領解説・総則編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	15			5	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10						45
	技能に関する評価			5	5					10
	応用力に関する評価		20		5					25
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価				5			5	5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 教育方法論の意義	講義・質疑応答	【復習】 シラバス・テキストを確認する	45
第2回 /	学びの本質 学びの構造と様態	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料をよく読み直しておく ・教育の目的を確認しておく	45
第3回 /	教育方法の基礎理論 教育方法の歴史の変遷の概観	講義・質疑応答	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第4回 /	教育評価 教育課程、教育評価の概観	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 小・中・高校時の通知表の形式を想起しておく 【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第5回 /	教育方法のあり方 －主体的、対話的な学習を引き出す教育方法	講義・質疑応答 ディスカッション	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第6回 /	学習指導案の作成と模擬授業 －学習指導、教育方法等を踏まえた学習指導案の作成	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 「学習指導案」作成について考えておく 【復習】 「学習指導案」作成	45
第7回 /	対象となる児童及び生徒等への理解 －授業等を構成する基本的な要素	講義・質疑応答	【予習】 自分が小・中学校等で過ごした学級を想起しておく	45
第8回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	【復習】 これまでの内容を確認し、自分なりの教育観を想起する	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用 ICT Utilization in The Education	1 単位	必修	講義	2 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
--------	---

キーワード	情報通信技術、教育の情報化、情報活用能力、デジタル教材、個別最適な学び、協働的な学び、教育データ、情報モラル、校務支援システム、ICT 支援員、教育情報セキュリティ、遠隔・オンライン教育	学修教育目標	情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

情報通信技術を活用した教育の「理論」と、各学校でどのように実現するかを説明する「方法」をバランスよく取り上げる。また、ICT を活用する授業や校務がイメージできるように、可能な限り実践例を示しながらわかりやすく説明する。また、本科目の授業においても、「TGU e-Learning」を使いながら情報通信技術を活用した授業を展開していき、児童生徒「1人1台端末」環境での授業や教育支援を構想し、実施の準備ができるようにする。グループワークや探究的な学習を取り入れることから、能動的に学修する態度を求める。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

各学部で開講されている情報通信技術関連の科目を積極的に学修し、自ら情報通信技術を身に付けて教育に活用できるように準備しておくこと。また、教育の基礎的理解に関する科目の教育学概論、教職概論、教育心理学、および教育方法論で学習する内容に関する知識を持つことが望ましい。

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：情報通信技術を活用した教育の理論および方法 著者名：西野和典編著 出版社：実教出版	書名：教育の情報化に関する手引 ー追補版ー（令和2年6月） 著者名：文部科学省 出版社：文部科学省

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	ICT を活用したの教育について、自ら考え、工夫して教育への導入を構想することができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ICT を活用することで可能になる教育の課題を見つけ、解決に向けて ICT の活用について考えることができる。	◎
	② 計画力	ICT を活用した教育を実施するまでの計画を適切に立てることができる。	△
	③ 創造力	ICT の効果的な活用について構想することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	構想した ICT を活用した教育内容について、わかりやすく説明することができる。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教員や他の学生からの助言を受け入れ、学習を改善することができる。	△
	④ 状況把握力	児童生徒の状況について把握し、適切に ICT の教育活用を考えることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自ら適切に情報を取り扱うとともに、情報モラルに関する教育を推進するための基礎的な知識を持っている。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20			30		100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10			10		50
	技能に関する評価				10			10		20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10					10		20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>情報通信技術の活用の意義と理論に関して深く理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について体系的に理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付け、授業に応用できる準備ができています。</p> <p>各学修項目の達成度が80%以上である。</p>					<p>情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。</p> <p>各学修項目の達成度が60%～80%未満である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育の情報化 －情報社会に求められる能力、ICT活用の意義と在り方、教育の情報化の概要	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第1回の授業で ・学修した内容の復習	復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第2回 /	情報活用能力の育成 －情報活用能力の定義、情報活用能力の内容と指導、児童のICT活用の指導法	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第2回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第3回 /	ICTを活用した教材開発と指導法 －ICTを活用した学習指導、ICTを効果的に活用した指導事例、ICTを活用した教材開発	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第3回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第4回 /	教育データを活用した評価 －教育データの学習評価と指導への活用、教育情報セキュリティの重要性	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第4回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第5回 /	情報モラル教育 －情報活用能力としての情報モラル、情報モラル教育のための必要な知識と連携、各教科での情報モラル教育	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が情報モラル教育の指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第5回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。レポートを提出する。			
第6回 /	ICTを活用した特別支援教育 －特別支援教育でのICT活用、特別支援教育でのICT活用の留意点	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第6回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第7回 /	校務の情報化とICT環境の整備 －統合型校務支援システム、校務への活用と推進、ICT環境の整備、外部機関との連携	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者がICT環境の整備について、他学習者と情報交換する。	第7回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力する。			
第8回 /	遠隔・オンライン教育 －遠隔・オンライン教育の意義と分類、遠隔教育システムとオンライン学習での学び	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が実際にオンラインでの教育活動を体験する。	第8回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	ポートフォリオを入力し、レポートと合わせて最終的に提出する。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 生徒指導の理論及び方法	生徒指導の理論と方法 Theory and Method on Student Guidance	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>「生活指導」は、大正期末あたりから教育実践のなかから生み出され、理論的にも深められてきた日本に固有の概念である。この講義では、我が国の生活指導の実践と理論の歴史に学びながら、「子どもの荒れ」「学級崩壊」「いじめ」「登校拒否・不登校」などの今日的な問題の克服方途を考えてみたい。</p>					
キーワード	自己指導能力、道徳教育、キャリア教育、いじめ、不登校、反社会的問題行動	学修教育目標	<p>(1) 生徒指導の意義や原理が理解できる。 (2) 児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方が理解できる。 (3) 児童・生徒の抱える生徒指導上の課題の様態、養護教諭等の教職員及び外部の専門家、関係機関等と学内外の連携も含めた対応のあり方が理解できる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>生徒たちの自己指導能力（自らを律し、自ら高まろうとする能力）を育成するためにはどのような指導が大切なのかを考える力を育成する。そのために、今の自分を振り返るとともに、生徒たちにそのようなことを考えさせるためにはどのような指導が有効なのかを考えてもらいたい。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>生徒指導は全教育活動の中で行われなければならない。つまり、各教科、道徳、総合的な学習や朝の会、終わりの会、HR、給食、掃除、登下校すべてで行われなければならない。その中でマイナスをプラスに、プラスをよりプラスにして行く指導をしなければならない。だから、生徒指導を考える上では基本的な知識や、教養はもとより、人格形成も豊かにして行くことで、率先垂範できてモデリングされるような人物として自分を高めて行く必要がある。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：生徒指導論・道徳指導法 著者名：梨木 昭平 出版社：三恵社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようすることができる。				○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10	10			5	25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生徒指導の目標・内容・方法について十分理解できている。					生徒指導の目標・内容・方法について概ね理解できている。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生徒指導の意義と原理について	講義	社会人基礎力事前評価シートの記入	30
	コメントシート			
第2回 /	生徒指導の歴史と理論展開	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第3回 /	学校における生徒指導（1） －生徒指導の組織化、教科等における生徒指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第4回 /	学校における生徒指導（2） －生徒指導と道徳教育、生徒指導とキャリア教育	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第5回 /	生徒指導の組織と計画 －生徒指導の組織体制	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第6回 /	生徒指導の方法 －集団指導の意味と意義	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第7回 /	生徒指導の方法 －個別指導 教育相談の意義と目的	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 小テスト準備 復習：授業内容のまとめ	60 30
	小テスト、コメントシート			
第8回 /	生徒指導のあり方の理解	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：小テスト	30 30
	コメントシート			
第9回 /	校則・懲戒・体罰（法令の内容の理解を含む）	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書、ニュース等） 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ（レポート）	30 60
	プレゼンテーション、ワークシート			
第10回 /	いじめ問題の指導 －歴史的経緯、背景と現状・具体事例について理解	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第11回 /	不登校問題の指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第12回 /	暴力・非行問題の指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 30
	コメントシート			
第13回 /	発達障害児への指導	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書、ニュース等） 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ（レポート）	30 30
	コメントシート			
第14回 /	専門機関や地域との連携と課題	講義	予習：テーマに関する事前学習（教科書） 復習：授業内容のまとめ	30 60
	コメントシート・レポート			
第15回 /	最終まとめ	講義	授業全体の総まとめ・テスト	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の基礎 Base of Educational Counseling	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼児・児童の教育上の問題に関し、教師がカウンセリング相談をする上で、幼児・児童および親に対して望ましい適切な援助や助言を実施するための教育相談をはじめとして、人の心をケアするカウンセリング実務の技法について学ぶことを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	教育相談 カウンセリング 援助 助言	学修教育目標	幼児・児童・保護者をはじめとする他者に対して、より適切な援助ができるために、自己理解をベースにしつつ、人間の心に関する理解を深めていき、カウンセリングの諸理論や方法等、カウンセリングに関する基礎的な知識を身につける。			
-------	-----------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な教育相談の理論と技法を学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢について身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育心理学」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教科書

参考書・リザーブブック

プリント配布

書名：『よくわかる！教職エクササイズ③ 教育相談』
 著者名：森田健宏・吉田佐治子（編著）
 出版社：ミネルヴァ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。
	③ 実行力	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。
	② 計画力	
	③ 創造力	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。
	③ 柔軟性	
	④ 状況把握力	
	⑤ 規律性	
	⑥ ストレスコントロール力	
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるすることができる。

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「教育相談」に関する基礎的な知識を十分に理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を十分に習得できている。 各項目の理解度が80%以上である。					「教育相談」に関する基礎的な知識を理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を習得できている。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（1） －「不登校・引きこもり・いじめ」等の問題について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（2） －教育相談におけるスクール・カウンセリングの技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（3） －保護者対応について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	教育相談における心理アセスメント －心理検査を用い、幼児・児童の自己理解や対人関係のあり方の把握	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	心理アセスメント（1） －教育現場や社会で用いられているさまざまな心理アセスメントについて	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	心理アセスメント（2） －心理検査による自己理解	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	カウンセリング技法について（1） －幼児・児童や保護者との信頼関係の確立	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	カウンセリング技法について（2） －具体的なカウンセリング技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	幼児・児童に対する療法 －認知行動療法、ロジャースの自己理論と来談者中心療法、箱庭療法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	教育相談の具体的な進め方（1） －目標、進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	教育相談の具体的な進め方（2） －「不登校・引きこもり・いじめ」等に対する進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	教育相談の具体的な進め方（3） －相談体制、組織的取組み	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	教育相談の具体的な進め方（4） －学校外諸機関との連携と必要性	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	教師のメンタルヘルス	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第15回 /	これからの教育相談 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導の理論と方法 Theory and Method on Career Guidance	2単位	必修	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	主に中学校及び高等学校における進路指導について理解したうえで、個人のキャリア発達の理論およびキャリア選択の理論と実際について理解し、現代社会におけるキャリア教育の必要性について理解することを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	進路選択 キャリア発達 キャリア教育 勤労観	学修教育目標	(1) 進路指導・キャリア教育の意義や原理が理解できる。 (2) 生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導のあり方が理解できる。 (3) 生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方とあり方が理解できる。			
-------	---------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

主に中学校及び高等学校における進路指導とキャリア教育の指導について学修していくうえで、学生が自分自身のキャリア発達とキャリア選択について主体的に考え、積極性をもって授業にのぞむことを重視する。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特別活動指導法、教科教育法（生活）、道徳、社会人基礎力						
-----------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：『MINERVA はじめて学ぶ教職 19 キャリア教育』 著者名：藤田晃之 出版社：ミネルヴァ書房			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他者の成長のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	20			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価				5	10				15
	応用力に関する評価					5			10	15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5	5			10	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 進路指導及びキャリア教育の内容を十分理解し、自分自身のキャリア発達の振り返りを子どものキャリア発達を見通した指導や学級経営に生かすことができる。 各項目の理解度が80%以上である。 					<ul style="list-style-type: none"> 進路指導及びキャリア教育の内容を理解し、自分自身のキャリア発達の振り返りを子どものキャリア発達を見通した指導や学級経営に生かすことができる。 各項目の理解度が60%以上である。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	質疑応答	【予習】 本授業を履修する理由を確認しておく。	45
			【復習】 シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認する。	
第2回 /	進路指導及びキャリア教育と教育課程 -キャリアとは何か-	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、自らのキャリアについて考えを整理する。	45
第3回 /	進路指導の歴史① -<職業教育>から<進路指導>への展開-	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、これまでの進路指導について整理する。	45
第4回 /	進路指導の歴史② -これからの<進路指導>としての<キャリア教育>-	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、キャリア教育について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第5回 /	学校から社会への移行とキャリア教育	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、自らの「学校から社会への移行」について考えを整理する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第6回 /	キャリア教育の変容とさらなる展開 -新学習指導要領における位置付け-	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、新学習指導要領と近年のキャリア教育について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第7回 /	中間ふり返り	質疑応答 ディスカッション	【予習】 これまでの講義内容について、疑問点を整理しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 これまでの講義内容について理解を深める。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第8回 /	キャリア教育実践を支える基礎理論①	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、基礎的な理論について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第9回 /	キャリア教育実践を支える基礎理論②	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、基礎的な理論について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第10回 /	PDCA サイクルに基づくキャリア教育実践	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、PDCA サイクルに基づくキャリア教育実践について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第11回 /	キャリア教育における関係諸機関との連携	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、関係諸機関との連携について確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第12回 /	小学校・中学校・高等学校における実践事例	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、主な実践事例のポイントについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第13回 /	キャリア発達を支援するキャリア教育実践 -キャリアカウンセリング-	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 講義内容を基に、キャリアカウンセリングについて確認する。各自の課題作成の準備をおこなう。	45
第14回 /	キャリア教育における今日的課題と今後の展望	質疑応答 ディスカッション	【予習】 テキストを概観しておく。	45
	本授業のコメント・シート記載、評価		【復習】 これまでの全講義内容を整理し、質問や疑問点を整理しておく。	45
第15回 /	まとめとふり返り	質疑応答	【予習】 これまでの講義内容を総復習する。	45
			【復習】 試験準備を行う。	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教育実習	教育実習指導（中学校・高校） Guidance for School Nursing Practicum (Junior High School・High School)	1単位	必修	講義	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育実習生として、教育実習で求められる知識・技能を確認し、教育活動に参画する意識を高める。教育実習終了後には実習を振り返り、自己の学びと課題を明確にし、教員免許取得およびその先を見据えて実践および実践研究の基礎的な能力と学び続ける姿勢を身につけることを目的とする。	
	キーワード	学修教育目標

教育実習指導
教育実習参加の心構え
学校の理解

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許状取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解している。

授業科目の概要及び学修上の助言

教育実習の意義や目的、内容や留意事項等を理解し、実習参加への心構えをつくる。実習を有意義で実り多いものにするために、教員としての使命感や生徒への理解、教科に関する専門知識や教科等の実践的指導力等の獲得に関する課題を持つ。また、実習を終えてからは、実習で学んだ内容と大学の講義で学んだことを関連付け整理して行動できるようにする。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教員免許状取得に必要な科目全般

教科書

参考書・リザーブドブック

教育実習の手引き

『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）[文部科学省]

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③ 実行力	自分に必要な知識を定着させることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。	◎
	② 計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。	○
	③ 創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見・考え方を的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	◎
	④ 状況把握力	他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。	○
	⑤ 規律性	守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10				5	25
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価		10			5				15
	関心・意欲に関する評価		10		10	5			5	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、不足していた知識や技能を理解して修得している。</p>					<p>教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能を理解している。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教育実習を実施するにあたって (教育職公務員について・ICTの活用と注意点・情報モラルの指導) コメントシート	講義・質疑応答	復習：授業内容について復習し、理解する。	60
第2回 ／	教育実習の意義・目的・実習生の立場 コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第3回 ／	教育実習の心得（服務について・勤務について・授業について） コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第4回 ／	教育実習日誌・学習指導案について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第5回 ／	学級運営について、生徒指導について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第6回 ／	学習指導案の作成① コメントシート	講義・質疑応答 演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第7回 ／	学習指導案の作成② コメントシート	講義・質疑応答 演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第8回 ／	道徳教育について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第9回 ／	教育実習における報告と振り返り コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第10回 ／	テーマに基づくグループワーク コメントシート	講義・質疑応答 演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第11回 ／	テーマに基づくグループワーク コメントシート	講義・質疑応答 演習	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第12回 ／	安全教育について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第13回 ／	生徒指導について（生徒指導の方法、事例について） コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第14回 ／	学校の現状と諸問題と対応について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第15回 ／	教員を取り巻く課題について コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教育実習	教育実習（中学校） Teaching Practicum (Junior High School)	2単位	必修	実習	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	大学で学修した教育に関する知識や技能を教育の現場で実際に試行し、その成果を確認することを目的とする。 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することを目的とする。 指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実を即して記録することを目的とする。 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することを目的とする。 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することを目的とする 教科指導以外の様々な活動の場面で、適切に生徒と関わることを目的とする。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	教育実習 観 察 参 加 教育者の使命	学 修 教 育 目 標	教育実習の意義を理解する。 教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。 学習指導案作成の仕方を修得する。 学習指導案に基づき授業を実施できる。			
-----------------------	------------------------------	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接ふれ合い、指導教員の指導・助言を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。 実際の教育指導実践を通して、生徒理解や教育者としての使命感を養う。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教員免許状取得に必要な科目全般						
-----------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
教育実習の手引き			『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）[文部科学省]			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①						
②						
③						
④						
⑤						

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に実習に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	○
	④ 情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性	最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					20				80	100
評価 の 指標	知識に関する評価				10				16	26
	技能に関する評価								16	16
	応用力に関する評価								16	16
	チームワークに関する評価								16	16
	関心・意欲に関する評価				10				16	26
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教員として必要な資質や能力を確認し、教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につけている。</p> <p>教員としての適性を確認するとともに、教員になるために必要な自己の課題を見つけている。</p> <p>生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解している。</p>					<p>学習指導要領に基づき適切な指導案（計画）を作成し、授業を実践することができる。</p> <p>学級担任の役割と職務内容を理解している。</p> <p>様々な活動の場面で生徒と適切に関わることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第2回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第3回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第4回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第5回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第6回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第7回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第8回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第9回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第10回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第11回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第12回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第13回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第14回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第15回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必修区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教育実習	教育実習（高校） Teaching Practicum (High School)	2単位	必修	実習	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	大学で学修した教育に関する知識や技能を教育の現場で実際に試行し、その成果を確認することを目的とする。 生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することを目的とする。 指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実を即して記録することを目的とする。 学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することを目的とする。 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することを目的とする 教科指導以外の様々な活動の場面で、適切に生徒と関わることを目的とする。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	教育実習 観 察 参 加 教育者の使命	学 修 教 育 目 標	教育実習の意義を理解する。 教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。 学習指導案作成の仕方を修得する。 学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。			
-----------------------	------------------------------	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。 実際の教育指導実践を通して、生徒理解や教育者としての使命感を養う。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教員免許状取得に必要な科目全般						
-----------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
教育実習の手引き	『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）[文部科学省]

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に実習に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	目標達成に向けた働きかけをすることができる。	○
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	○
	④ 情況把握力	自分と周囲の人々や物事との情況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性	最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、教員としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					20				80	100
評価 の 指標	知識に関する評価				10				16	26
	技能に関する評価								16	16
	応用力に関する評価								16	16
	チームワークに関する評価								16	16
	関心・意欲に関する評価				10				16	26
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教員として必要な資質や能力を確認し、教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につけている。</p> <p>教員としての適性を確認するとともに、教員になるために必要な自己の課題を見つけている。</p> <p>生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解している。</p>					<p>学習指導要領に基づき適切な指導案（計画）を作成し、授業を実践することができる。</p> <p>学級担任の役割と職務内容を理解している。</p> <p>様々な活動の場面で生徒と適切に関わることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第2回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第3回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第4回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第5回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第6回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第7回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第8回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第9回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第10回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第11回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第12回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第13回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第14回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60
第15回 /	別途、実習要項を参照のこと	実 習	実習校での授業準備・実践・振り返り等	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教職実践演習	教職実践演習（中学校・高校） Exercise for Teaching Profession (Junior High School・High School)	2単位	必修	演習	4年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教職に関する基本的な理解を確かなものとし、教職現場における対人関係能力、生徒を理解し、学級経営の基本的な能力および教科内容の理解とそれを活かした授業を構想し、実現する力など、基本的な指導力に関する能力を修得することを目的とする。 学校教育の場で直面する問題点を整理し、それに対応する実践的な能力を身に付ける。					
	キーワード	学修教育目標	学校教育の場で直面する問題点を整理し、それに対応する実践的な能力を身につける。自己評価・相互評価を通じて各自が養成段階で修得すべき必要な資質能力（教員としての使命感や責任感、教育的愛情をもって教科指導や生徒指導などの職務を著しい支障が生じることが無く実践できる資質能力）の確立を行う。			

授業科目の概要及び学修上の助言

教職に関わる課題・教科教育（特に授業現場）における課題をそれぞれのテーマごとに、ロールプレイング・グループディスカッション・模擬授業などを行い、問題点を整理し対応策を考える。 教育に対する使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。 社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教員免許状取得に関わる授業すべて 生徒の理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身につけている。 教科等の指導力の基礎を形成している。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
学習指導要領（最新版） 文部科学省	授業ごとに必要資料を配付

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①		
②		
③		
④		
⑤		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教育実習指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。	◎
	② 働きかけ力	生徒についての理解を深め、実習体験をもと指導するという技術を身につけることができている。	◎
	③ 実行力	教員として必要な知識を定着させることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見し、改善することができる。	◎
	② 計画力	課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。	○
	③ 創造力	これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見・考え方を的確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。	◎
	④ 状況把握力	他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。	○
	⑤ 規律性	最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	教職での学修を、履修カルテをもとに振り返り、取り組まなければならない課題について努めようとしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		5	10			5	40
	技能に関する評価		20			5				25
	応用力に関する評価		10			5				15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価				5	5			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、生徒の理解と学級経営に関すること、および教科内容と授業の構想・実現に関して、基本的な認識と能力を身につけている。</p>					<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、生徒の理解と学級経営について基本的な認識と能力を身につけている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教職に関わる課題の理解と実践演習 (学習の振り返り・教職の意義及び教員の役割) コメントシート	講義・質疑応答	復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第2回 ／	学校教育の課題 (地域・保護者との連携、学校評価) コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第3回 ／	学級経営の課題 (学級の活性化、不登校・学級崩壊への対応) コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第4回 ／	学校組織・協働 (校務分掌、危機管理、資質向上と研修・服務) コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第5回 ／	特別活動・総合的な学習の時間の取り組み (意義と課題) コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第6回 ／	特別支援教育の現状と課題 コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第7回 ／	事例研究 (学校教育・学級経営の側面での課題について) コメントシート・スピーチ	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第8回 ／	教科教育（特に授業現場）における課題の理解と実践演習 (教科に関する基礎知識の確認・補完) コメントシート	講義・質疑応答	予習：授業内容に関する課題 復習：授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第9回 ／	教科に関する知識の授業への具体化 模擬授業とリフレクション：「情報社会の問題解決」領域 リフレクションシート	演習	模擬授業のための指導案作成 模擬授業振り返り	60
第10回 ／	教科に関する知識の授業への具体化 模擬授業とリフレクション：「コミュニケーションと情報デザイン」領域 リフレクションシート	演習	模擬授業のための指導案作成 模擬授業振り返り	60
第11回 ／	教科に関する知識の授業への具体化 模擬授業とリフレクション：「コンピュータとプログラミング」領域 リフレクションシート	演習	模擬授業のための指導案作成 模擬授業振り返り	60
第12回 ／	教科に関する知識の授業への具体化 模擬授業とリフレクション：「情報通信ネットワークとデータの活用」領域 リフレクションシート	演習	模擬授業のための指導案作成 模擬授業振り返り	60
第13回 ／	授業運営（教科の指導力、専門教科情報科における授業設計） —事例研究— リフレクションシート	演習	模擬授業のための指導案作成 模擬授業振り返り	60
第14回 ／	教科教育における課題について 演習（自らの実習での経験・体験から学ぶ） コメントシート	講義・質疑応答	授業内容に関する課題 授業内容に関する小レポートまたは課題	60
第15回 ／	「まとめ」 教員としての能力・資質の確認（自己分析・評価を含む） レポート	講義・質疑応答	教職カルテの整理	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。